



第17話 初めての選挙



「大は誕生日が10月だから投票でき
 してただけど…」
 「昨日、学校で先生が、僕たち高校
 3年生の中には、2月の県知事選の
 投票権がある人もいるだろうって話
 してただけど…」
 「ああ、そういえばもうすぐだった
 わね。愛知県知事選」
 「昨日、学校で先生が、僕たち高校
 3年生の中には、2月の県知事選の
 投票権がある人もいるだろうって話
 してただけど…」

「でも当日は受験日とかぶってるから
 期日前投票に行こうと思ってるんだ。
 うちの学校が投票所になるんだって」
 「まあ、そうなの。高校で投票が済ま
 せられるのだったら良かったじゃない
 の。でも、近隣の人たちが投票に来る
 んでしょ？ 大丈夫なのかしらね？」
 「その日はおれの高校では3年生の
 学年末テストなんだよ。だからテス
 トが終わったからおれたちも投票でき
 るってこと」

「校内に投票所を設置するのは県内で
 は初の試みらしく、先生たちも投票
 することで政治に関心をもって
 ほしい！」と話していたな。29日が
 期日前投票日。学校でも何人かの生
 徒が手伝うって説明があったな。お
 れはまだ高校生なんだけど、選挙権
 を持つってことは、大人の仲間入り
 かってちよっと感慨深いな。自分
 の一票が愛知県の政治に影響を与え
 るって思うと緊張してくるな…
 「今回の期日前投票所は大の高校の
 他にはどこがあるのかしら？」
 「うちの高校以外だと大府市役所、
 至学館大学、アローブの3カ所か
 な。詳しくは市役所のホームページ
 を見ればいいんだよ。スマホでも簡
 単に観られるからさ」
 「なるほどね。全く便利な時代よね…」
 ……
 テストが終わったら一階まで降りて
 いった会議室で投票だ。近所の人も何
 人か来ているな…緊張しながら会議室
 の中へ入ると、5組の幸一が受付に
 座っていた。投票事務を手伝っている
 のか…見かけによらず立派だな。
 「おお、大。おまえってもう18歳な
 の？ 初めての投票になるんだな」
 「うん、2月3日は大学の試験日と重
 なっちゃって。記念すべき初めての
 投票なんだからしとかないって」
 投票所へ入場券を受付に出して、本
 人確認して、投票用紙をもらって、
 候補者1人の氏名を書いて投票箱に

「小う、緊張したけど無事に投票で
 きた…」
 家に帰って家族に期日前投票をした
 ことを報告した。
 「えらいじゃないか、大」
 「いいちゃんが目を丸くして驚いてい
 る。当たり前のことしただけさ!!」
 「だろ？ みんなもちゃんと投票し
 ろよ？」
 「大に言われたくないわよ」
 母さん、そりゃないって…おれだっ
 てこの選挙を通じて政治について
 もっと勉強しようと思えるようにな
 ったんだぜ。
 (3月1日号へ続く)

愛知県知事選挙
投票日時・場所
 2月3日(日) 午前7時～午後8時
 市内投票所(広報おおぶ1月1日
 号No.1158参照)

- 投票所入場券をお持ちいただき、投票所へお越しください。
- 投票所入場券を紛失したり、忘れた場合は、有権者であれば入場券がなくても投票ができますので、投票所の係員にお申し出ください。

文	大府東高校一年	金田千紘
絵	大府東高校二年	中村有里
同一年		納貝怜亜
同一年		加藤梨瑚
同一年		松本幸一郎

久しぶりの再会 夢語り合う 成人式

13日、愛三文化会館(勤労文化会館)で成人式が開催され、晴れ着に身を包んだ764人の新成人が決意を新たにしました。今年、大府市で新成人になったのは、平成10年4月2日～平成11年4月1日に生まれた1029人。新成人を代表して、竹林玉恵さんは「私たち新成人が、さらなる日本の繁栄の糧となれるように日々努力を続け、新しい時代を創り上げていきます」と誓いの言葉を述べました。会場では中学時代の恩師の登場やクイズ抽選会なども行われ、大いに盛り上がりました。



▲この後、懐かしい思い出話に花を咲かせていました。



▼参加者は思いを込め、書き初めに挑みました！



新春書き初めに挑戦 子ども書初め大会

5日、愛三文化会館(勤労文化会館)で文化協会主催の子ども書初め大会が開催され、市内在住の園児・児童・生徒ら100人が書き初めに挑戦しました。この行事は、書き初めを通して豊かな人間性を育むことなどが目的で、参加者らは「ひので」「努力の成果」など課題語句に取り組みました。参加者らは「字のバランスが難しかった」「上手に書けた」などと感想を話しました。

▼参加団体が見事な放水アーチを披露しました！



防火防災誓う 放水アーチ 消防出初式

5日、メディアス体育館おおぶ(市民体育館)駐車場で、消防出初式が行われました。岡村市長は「今後も市民と行政が一体となり、地域の防災力の強化を目指します」とあいさつし、式典での訓練では、参加団体による分列行進、消火・搬送訓練、ポンプ車の一斉放水が行われ、出初式終了後には、消防車などの記念撮影や、おしるこの無料配布が行われ、観客は温かいおしるこの舌鼓を打っていました。



ウクライナ出身のゲナディさんに大府での生活について話を聞きました。ゲナディさんは、40以上の国に行ったことがあり、5番目の「住む」国として昨年3月に大府にやってきました。現在は大府で英語の先生をしています。

以前に2度日本に来たことがあるそうで「自然が豊かで、まちはきれい。便利で、治安が良く、人は勤勉で仕事や趣味に熱心」という印象を受けたそうです。大府に住むことを決めたのは、職場があるだけでなく「都会から離れすぎない小さなまちに住みたかったから」とのことです。大府のいいところは「自然が豊かで、人が親切で、インフラが整備されているところ。アローブで過ごすのがお気に入り」と話します。一方、困ったことを聞くとゴミの分別が複雑で分かりにくいことだそうです。



▲ゲナディさん。JAあぐりタウン げんきの郷にて。

ほぼ単一民族国家の日本に来たことに戸惑いはないかと尋ねると「人と触れ合うことも好きだけれど、読書をしたり、自転車で出かけたり、映画鑑賞をしたりして一人で過ごすことも好きなので、あまり気に入ったことがない。冷戦時代、鉄のカーテンの向こう側と呼ばれたウクライナから多文化社会のニューヨークに移った経験があるので、あまりカルチャーショックを受けなかった」と話します。

住みよさランキング全国6位に選ばれた大府。このように、外国人からも選ばれるまちだとうれしいですね。



料金受取人払郵便
差出有効期限
平成31年4月30日まで
(切手を貼らずに
お出しください)

郵便はがき

4 7 4 8 7 9 0

〈受取人〉
大府市役所
広報広聴課 行



広報おおぶ「みんなの声」専用はがき

年齢 / 歳 性別 / 男・女

広報おおぶの今後の編集や企画に生かしていきたいと思っています。
ご意見をお聞かせください。

広報広聴課 ☎(45)6214

「みんなの声」使い方

- 1 広報紙から切り取ってください。
- 2 アンケート欄に記入してください。
- 3 半分に折り内側全面をのり付けてください。
- 4 ポストに投函してください。

Q1 今回の広報おおぶで、文字・色・構成などについて、見やすいと思った記事、見にくいと思った記事とその理由をお聞かせください。(下表の番号を記入してください。複数回答可)

見やすい() 見にくい()

理由

Q2 今回の広報おおぶで、面白い・役に立った記事、そうでなかった記事とその理由をお聞かせください。(下表の番号を記入してください。複数回答可)

面白い・役に立った()
そうでなかった()

理由

Q3 今後取り上げてほしい企画や広報おおぶへのご意見・ご要望をお聞かせください。

ご協力ありがとうございました。

1159

【この号の内容】 ①マンガ広報 ②大府市広報大使 吉田沙保里さん レスリング引退 ③フォトNews ④特集「障がいがあっても、社会とつながり、働く幸せを」 ⑤市政NEWS ⑥おめでとうございます ⑦情報パック ⑧Ellen's Corner ⑨結婚カンコン ⑩みんなにごあいさつ ⑪夢キラリ人 松村月音さん ⑫その他

忙しく駆け抜けた現役時代 お世話になった地元へ恩返ししたい



大嶋 絢子さん・宣夫さん

(77歳・76歳、横根町)

挙式：昭和42年12月17日

(寄り添い51年)

◆出身と出会いは。

【宣夫】蒲郡出身。名古屋で自動車設備業の修行中に知り合いました。互いに長男長女でしたが、私が折れて婿に入りました(笑)。

【絢子】私は当時、名古屋で病院の栄養士をしていました。

◆お互いの性格は。

【絢子】私はズボラで、お父さんは神経質で短気(笑)。正反対の性格だけど、何だかんだで50年を迎えることができました。

◆現役時代の仕事など。

【宣夫】結婚2年目に独立しました。忙しくて、除夜の鐘を工場で何回聞いたか分からないです。

【絢子】私も同じ頃、母と食堂を開業しました。娘が生後6カ月と小さく大変だったのを覚えています。

【宣夫】夫婦が会うことがないぐらい忙しかったね。

◆趣味や日課、活動など。

【宣夫】老人会「第1寿会」の会長を務めています。各クラブの面倒を見るなど、絢子も手伝ってくれます。これまでの、地元への恩返しの気持ちでやっています。

【絢子】高校の友人と月1回のモーニング。次第に人数が増えて、男女15人集まることもあります。一番気心が知れている仲間ですね。

◆これからやりたいことは。

【宣夫】暇を見つけて、外食など2人でゆっくりできればそれが一番かな。

【絢子】今やっていることを、できるだけ長く続けたいね。ごく普通のことをやってこれたことがありがたいと感じます。



3歳以下のおおぶキッズをご紹介！

掲載希望の方は広報広聴課へご連絡ください。

広報広聴課 ☎(45)6214



えいた
河村 瑛太さん

平成28年1月21日生まれ
 正樹さん(父) 由依さん(母)

えがおでいつもパパとママに幸せくれる
 たからもの外遊びが大好きな、マイペースで優しい男の子です。これからも楽しい日々を過ごそうね。大好きだよ。



ひらばえ りょうた
平生 涼大さん

平成29年12月30日生まれ
 洗一郎さん(父) 峰歩さん(母)

3人兄弟の三男、りょうたです。2人のお兄ちゃんに囲まれ、だんだんたくましくなってきました。りょうたの笑顔が家族の癒やしだよ♪ 元気に、真っすぐに、大きくなってね。

広報おおぶの紙面を飾ってくださる方を大募集！

募集しているのは、「金婚カンコン」「みんなにごあいさつ」「表紙などの読者モデル」。

掲載された方には、掲載した写真を、広報おおぶの表紙風に加工してプレゼント。記念に1枚いかがですか？
 詳細は市ホームページをご覧ください。

問い合わせ 広報広聴課 ☎(45)6214 ✉koho-obu@ma.medias.ne.jp



日本語を通じて世界とつながりたい

つきね
松村 月音さん(宮内町在住)

外国人への日本語教育に熱心に取り組む松村月音さんは、JICAのボランティアプログラムを通して、1月15日から2年間、ブラジルのサルト市に渡り、日本語の指導にあたります。「ポルトガル語に少し不安はありますが、楽しみながら交流を図りたいです」と抱負を語ります。

松村さんは、この仕事について「3歳から英語を習っていたので海外で仕事がかつたこと、人にものを教えることが好きだったことから中学生の頃に興味を持ちました」と話します。

過去にも、ラオスで日本語教師の補助職として働いた経験を持つ松村さん。「初めて『日本語教師』という肩書きを持って働く機会だったので、楽しみにして現地へ向かいました」と志高く挑みましたが、ゆっくりとした時間の流れに慣れた現地の人たちの考え方に戸惑いを感じました。「勉強熱心な生徒ばかりではありませんでしたので、いかにモチベーションを高く維持させるかが大変でした」と思わぬ苦労に見舞われますが、松村さんは、生徒たちに思いが伝わるうれしさや伝わらない悔しさ

を感じてほしいと、一貫して日本語のみを使ってコミュニケーションを取り続けました。互いに必死になって思いを伝え合う中で、次第に生徒たちから信頼してもらえようになったという経験から、言語の通じない国でも日本語教育が行えることを実感します。

将来について「毎年、近隣のアジア圏の方々がたくさん日本を訪れていますが、最近では日本人にはなじみのない言語を話す国からの方も増えています。日本を訪れた方々が『日本に来て良かった』と思えるように手助けできたらと思います」と語る松村さんは、併せて受け入れる側の日本人の意識がより良い方向に向かうことを期待します。「いろんな人が相手を優しく受け入れられるきっかけ作りをしていきたい」と話し、今日も遠い外国の地で、日本語教育に奮闘します。



みなさんは、どんなお正月を過ごしましたか？ 昨年は伊勢神宮での爆食いをここで白状した私ですが、今年は、来る試験に向けて静かにお勉強にいそしみました。久々のお勉強に悪戦苦闘しておりますが、来年の今ごろにはこの雑記を懐かしんで見ていただけるように、今日も頭から湯気を出して頑張ります。(相)